

今こそ男性への学習支援を

—「男性にとっての男女共同参画」を推進するために

犬塚 協太

「男性にとっての男女共同参画」の推進が、ようやく本格的に求められる時代になった。国の第3次男女共同参画基本計画でも「男性、子どもにとっての男女共同参画」が新たな重点分野の1つとして位置づけられ、地方自治体や企業でも男性のワーク・ライフ・バランスの実現を目指した多様な施策や取組が行われてきている。

もちろん現実には、依然として固定的なジェンダー意識に拘束され、「男は仕事」の呪縛と負荷から逃れられないでいる男性たちは圧倒的に多い。しかし、一方で着実な変化の兆しも認められる。「イクメン」ブームに見られるように、育児を積極的に担いたいとする若い男性の意識は明らかに広がりつつある。また厳しく不安定さを増す労働条件の中で、これまで当然視されてきた「男性単独稼ぎ手」モデルへの疑問を潜在的に抱え始めた中高年男性も数多い。先日筆者が講師を務めた、ある男性相談員養成講座には、定員をはるかに超える受講希望者の男性が殺到し、主催した自治体ではうれしい悲鳴が上がっていた。男性たちの中に、少しずつだが確実に変化のエネルギーは蓄積されてきているのである。

筆者の周りでも、最近、男女共同参画のための何らかの地域活動を実践している男性が増えてきた。会社員、公務員、教員、自営業…とそのキャリアは様々だが、全員に共通しているのは、ふとしたきっかけで参加した講座や学習機会を通して、初めて知った男女共同参画への強い関心が芽生えたという経験だった。

男性たちの潜在的なエネルギーをさらに引き出し、現実の彼らの生き方の変革につなげるために、今こそ必要とされるのは、彼らのこうした変化の動きを敏感にキャッチして効果的な啓発・教育を行う学習支援の場を社会の中に拡充していくことである。男性向けの多様な男女共同参画学習プログラムの開発と普及が、今強く求められている。



PROFILE

いぬづかきょうた：静岡県立大学男女共同参画推進センター長・国際関係学部教授。専門は家族社会学、ジェンダー社会学。近現代の日本の家族観やジェンダー規範の変化、男女共同参画政策の展開などが主な研究テーマ。地域における男女共同参画推進のための様々な社会的活動も行っている。現在、内閣府男女共同参画推進連携会議議員、国立女性教育会館外部評価委員、しずおか男女共同参画推進会議教育部長等を務める。